



大出区安全安心なまちづくり

推進協議会だより



令和元年 8 月 第 8 号

大出区における本年度の感震ブレーカー設置世帯 43 世帯へ

本年 1 月 20 日設立発足式を行った「大出区安全安心なまちづくり推進協議会」は、防災減災対策委員会を設置し、これまでに伊那谷断層帯の実査と防災講演会を開催するとともに、できることから始めようとのもと一部補助により感震ブレーカーの斡旋を行いました。

斡旋結果は、予定数量を上回る 43 世帯に設置することとなりました。

今後も要望をみながら、斡旋を継続したいと考えておりますので、次回斡旋時にはより多くの世帯に設置してもらうことを期待いたします。

○ 感震ブレーカーの斡旋について

6 月の合同会で組長さんを通じて集約したところ 33 世帯から申し込みがあり、雪かき・ゴミ出し支援世帯を含めて 43 世帯に設置することとなりました。

地震被害の軽減対策は

「地震はいつ来てもおかしくない。」から
「地震は必ず来る。」との意識改革のもと、
『できることから始めよう』が大切です。



○ 感震ブレーカーと予測被害を再度お伝えいたします。

感震ブレーカーは、地震の揺れを感知して電気のブレーカーを発生時に切断して、通電による電気コードの切断・圧迫、発熱する電気器具にかぶさった衣類等引火しやすいものから発生する火災を防ぐものです。

地震被害における電気火災

- ・ 阪神淡路大震災では、139 件の火災のうち電気火災は 85 件(約 6 割り)
- ・ 東日本大震災では、110 件の火災のうち電気火災は 71 件(約 6 割強)
- ・ 首都直下地震では、推定死者 2 万 3 千人、全壊焼失 61 万棟の被害が予測されますが感震ブレーカーで火災死者を 40%以上減らせると言われています。
- ・ 箕輪町では、糸魚川静岡構造線の地震で 120 棟が焼失、伊那谷断層帯地震で 110 棟が焼失するとの予測がされています。(電気火災だけでなく全ての火災被害)

○ 設置した方の声

阪神淡路大震災のような火災がなくなればという思いと、火災の元にならぬという思いで取り付けました。取り付け後のテストを行いブレーカーが切れた時の気持ちは「これで安心。」でした。